産經新聞
令和6年（2024）日刊29070号
1｜11［木］
産業経済新聞（サンケイ）
THE SANKEI SHIMBUN
発行所　©産業経済新聞社東京本社2024
〒100-8077東京都千代田区大手町1-7-2
東京(03)3231-7111（大代表）
購読のお申し込み、配達・集金などのお問い合わせ　0120-34-4646（全日 7時～21時）
https://reader.sankei.co.jp/reader/
紙面・記事へのご意見・ご感想　0570-046460（平日10時～17時、土・日・祝日休み）
u-service@sankei.co.jp

滋慶学園グループ　一人ひとりを大切に

提案力×技術力　高松建設　詳しくは 高松建設 検索　0120-53-8101

朝の詩（うた）

誕生日

福岡県大牟田市　中村　裕子　60

誕生日にビール
命日にぼたもちを
供えていたら
じいちゃんはええなあ
誕生日が二回もあって
と　小太郎が言った
そうよ　小太郎
命日はあの世での
誕生日なんよ
じいちゃん
誕生日おめでとう

（選者　八木幹夫）

池田議員　廃止決定後に要求

幹部再協議で難色も継続

パーティー収入還流

自民党派閥のパーティー収入不記載事件で、東京地検特捜部に政治資金規正法違反の疑いで逮捕された衆院議員の池田佳隆容疑者が、安倍派（清和政策研究会）が一昨年4月にパーティー収入の一部を所属議員にキックバック（還流）する慣例の廃止を決定した後に還流継続を要求し、幹部が再協議していたことが10日、関係者への取材で分かった。特捜部は幹部を再聴取。協議のメモを入手し、詳しい経緯を調べているもようだ。

「泣きが入っている」

関係者によると、令和4年5月のパーティーに先立つ4月上旬、当時の安倍晋三会長、塩谷立、下村博文同会長代理、西村康稔事務総長らが還流を巡り協議した。安倍氏が「現金で戻すという不透明なことはやめよう」と述べ、還流廃止が決定。幹部は所属議員に電話などで方針を伝えた。だが、池田容疑者は幹部に還流継続を求めた。

衆院議員の池田佳隆容疑者

同年7月に安倍氏が死去。8月上旬に塩谷、下村、西村氏らが再協議し、一部幹部から『（池田容疑者から）泣きが入っている』と還流継続を求める主張が出たという。

これに対し、別の幹部は還流継続に難色を示しつつ、「正々堂々と振り込みを行い政治資金収支報告書に記載するやり方がある」として、将来的に所属議員が開くパーティーの券を派閥が購入し、収支報告書に記載する方法を例示した。この時点では安倍氏の方針を再確認するにとどまり、還流決定には至らなかったという。

同年8月10日の内閣改造で西村氏が経済産業相に任命され、25日に事務総長は高木毅前国対委員長に交代。その後、還流が実施されたが、収支報告書に記載しない従来の処理が踏襲された。

特捜部は事務総長経験者らに任意で事情聴取した。いずれも派閥の収支報告書の記載に当たり、会計責任者への指示や会計責任者からの相談はなかったなどと説明しているもようだ。塩谷、下村、西村各氏は還流継続の経緯に関する産経新聞の取材に対し、期日までに回答しなかった。

政治刷新本部の設置決定

自民きょう初会合　幹事長に木原誠氏

自民党臨時総務会で発言する岸田文雄首相（右から3人目）＝10日、東京・永田町（春名中撮影）

自民党は10日の臨時総務会で、派閥のパーティー収入不記載事件を受け、総裁直轄機関「政治刷新本部」の設置を正式に決めた。11日に初会合を開いて政治改革の議論をスタートさせ、月内に中間取りまとめを行う。本部長の岸田文雄首相（総裁）は臨時総務会で「国民の信頼回復に向けて努力し、再発防止に努めなければならない」と強調した。

首相は刷新本部に関し「政治資金の透明性の拡大や、政策集団（派閥）のあり方に関わるルール作りなどの議論を深めていきたい」と述べた。

透明性向上のため、今月26日召集予定の通常国会での政治資金規正法改正を念頭に議論を具体化する。パーティー券購入団体・個人の公開基準を現行の「20万円超」から「5万円超」に引き下げることや、不適切な会計処理に対する罰則強化などの案がある。

党内の取り組みとして、党によるパーティー収支の監査なども検討する。首相は派閥について「カネやポストを求める場になっていたのではないか」と問題点に言及している。森山裕総務会長は10日の記者会見で「派閥が果たすべき役割については当然議論になる」と語った。

刷新本部のメンバーは茂木敏充幹事長ら党役員をはじめ約40人となる見通しだ。派閥解消を唱える無派閥の菅義偉前首相と、麻生派（志公会）会長で派閥には意義があるという立場の麻生太郎副総裁という首相経験者2人が最高顧問に就き、挙党態勢を演出する。

運営を仕切る幹事長は首相の最側近の木原誠二幹事長代理を起用。首相が改革を主導する狙いがあるとみられる。弁護士など外部の有識者も議論に加わる。

2次避難　1万人分確保

能登地震　死者206人、関連死8人

石川県輪島市でも開始された、被災建物の倒壊危険性を調べる応急危険度判定＝10日午前

能登半島地震の被災者の避難先として旅館やホテルなどを活用する「2次避難」を巡り、政府が週内に石川、富山、福井、新潟の4県で、計1万人分を確保できる見通しになったことが分かった。持病を持つ人、妊婦、要介護者、75歳以上の高齢者とその家族を優先させる方向で調整している。関係者が10日明らかにした。政府と石川県は避難所の厳しい生活環境を踏まえ、体調悪化に起因する災害関連死を防止する観点から、円滑な2次避難の実施に向けた調整を加速させる。

石川県で最大震度7を観測した地震は発生から10日目。午後2時時点の死者は206人。うち災害関連死は、新たに能登町の2人が増え、前日の珠洲市の6人と合わせ計8人になったと県は発表した。連絡の取れない安否不明者は52人になった。県内398カ所の避難所に2万5770人が身を寄せている。

災害関連死は地震による直接の死亡ではなく、震災後、けがの悪化や心身の負担による疾病で亡くなった死者。県は県内の宿泊施設7カ所に計182人が2次避難していることも明らかにした。

馳浩知事は「今のままでは、災害関連死が増えてしまう。早く決断してほしい」と避難者に呼びかけた。2次避難先の確保を図ると同時に、前段階として被災地からの一時的な避難を進める。

輪島市では二次災害を防ぐ目的で、被災した建物の倒壊の危険性を調べる「応急危険度判定」が七尾市や羽咋市などに続いて始まった。

＝3面に「職員派遣」、14面に「情報孤立」、20面に安否不明の方々、23面に「文化財崩れた」

4県の被害状況（10日午後4時現在、各自治体発表による。（）の数字は「災害関連死」と発表）

	死者	負傷者	避難者
新潟県	0人	48人	28人
富山県	0	41	94
石川県	206(8)	567	2万5770
福井県	0	6	0

赤ひげ大賞に5氏

千葉の84歳　清水医師ら

地域の現場で献身的な医療活動に取り組む医師を顕彰する「日本医師会赤ひげ大賞」（主催・日本医師会、産経新聞社、特別協賛・太陽生命保険）の第12回の受賞者が10日、発表された。表彰式は3月1日午後5時から、東京都千代田区のパレスホテル東京で行われる。

大賞を受賞したのは、清水三郎医師(84)＝千葉・清水三郎医院院長▽安福嘉則医師(76)＝岐阜・関市国民健康保険洞戸診療所医師▽亀井克典医師(66)＝愛知・かわな病院在宅ケアセンター長▽武田以知郎医師(64)＝奈良・明日香村国民健康保険診療所管理者▽北野明子医師(72)＝福岡・きたの小児科医院院長－の5人。

赤ひげ功労賞は14人が受賞。受賞者は、横倉稔明医師（茨城）▽水上潤哉医師（神奈川）▽河合邦夫医師（福井）▽原まどか医師（山梨）▽疋田順之医師（静岡）▽前沢義秀医師（三重）▽片山久史医師（京都）▽松尾晃次医師（和歌山）▽森本益雄医師（鳥取）▽松下明医師（岡山）▽梶原四郎医師（広島）▽洲崎日出一医師（徳島）▽西征二医師（鹿児島）▽松嶋顕介医師（沖縄）。

田久保忠衛氏　死去

「国民の憲法」起草、正論大賞　90歳

本紙「正論」メンバーで外交評論家の杏林大名誉教授、田久保忠衛（たくぼ・ただえ）氏が9日、細菌性肺炎のため死去した。90歳。葬儀・告別式は近親者・関係者のみで執り行う。喪主は長男、壮輔（そうすけ）氏。

千葉県生まれ。早稲田大法学部を卒業後、時事通信社に入社。ワシントン支局長、外信部長、編集局次長兼解説委員などを経て、昭和59年、杏林大教授に就任した。

日米安全保障条約に立脚した言論活動で知られた。平成8年、沖縄基地問題などに関する的確な分析と提言が高く評価され、第12回正論大賞を受賞。令和5年12月には、日本の世論形成に多大な貢献をしたとして、特別功労賞に選ばれた。

憲法改正を巡っては平成25年、産経新聞創刊80周年記念事業として発表された「国民の憲法」要綱の起草委員長を務めた。ジャーナリストの櫻井よしこさんが設立した民間シンクタンク「国家基本問題研究所」に参画、副理事長として活動を支え、27年には日本会議会長に就いた。著書に「戦略家ニクソン」「憲法改正、最後のチャンスを逃すな！」など多数。

＝2面に評伝

産経抄

純粋に歌の仕事がしたかった。「クラブ歌手になりたい」と夢を口にした娘を、父は初めてたたいた。「仕送りはしないぞ」と父。「信念を貫くわ」と娘。勘当同然で郷里の熊本を飛び出したのが当時16歳の八代亜紀さんである▼ハスキーな歌声は銀座のクラブで受け入れられ、人気の歌い手になった。そこでの安定した収入を捨て、レコード歌手として勝負をかけたのは昭和46年のこと。重いボストンバッグを持ち、夜の街を回って歌を売り込む日々。手のひらにできたマメはつぶれ、血がにじんでいた▼八代さんの覚悟を支えたのはクラブの女性たちから託された願いだという。「世の中には悲しい女が大勢いる。あなたの歌声を、そんな女性たちに聴かせたい」。だからレコードを、と。出世作『なみだ恋』のヒットはデビューから2年後だった▼〽心が忘れたあのひとも／膝が重さを覚えてる（『雨の慕情』）。〽しみじみ飲めばしみじみと／想い出だけが行き過ぎる（『舟唄』）。歌い出しであれサビであれ皆が歌詞と旋律を覚えている。そんな名曲の数々を残し、八代さんが亡くなった▼「悲しいね」と笑いながら歌い、「楽しいね」と悲しそうに口ずさむ―。歌唱の極意を問われ、そう語ったという。その人の歌声はときに女の情念が揺らめく「艶歌」になり、地震の被災地に届ける「援歌」にもなった。「私の歌は常に誰かの気持ちを代弁してきました」と▼歌はレコードからCDへ、そしてネット上へと足場を移し、消費される時代になった。「演歌の女王」が残した名曲たちはしかし、歌い継がれてゆくに違いない。世代を超えて聞き手の情を揺さぶった歌声は、これからも人々の胸の中で共鳴し続けるのだろう。

2024.1.11

主催・産経新聞社
人的資本経営2024
～キャリアオーナーシップとウェルビーイングによる組織づくり～
1月25日（木）13時から セミナー開催
詳細はこちら

朝晴れエッセー　母の秘密

2024.1.11

施設で寝たきりになった母の傍らで昔話を聴いていたときのことだ。

「実はね、働いていた商社の同僚からプロポーズされたことがあるんよ」と話し始めた。えーっ。聞けばその男性、学歴も容姿も完璧ではないか。背も低く頭のはげた父の顔が脳裏を横切った。何でその人と結婚しなかったの。「その人は長男でお姑さんがいたから、てへへ」とちゃっかりした返事だった。

4年前に亡くなった母は若いころ親の介護のため仕事を辞めた。介護を終え結婚した転勤族の父に付いて全国を回り、42歳で夫を亡くしてからは働きながら2人の子供を育てた。母の人生は親の、夫の、そして子供のための人生だったと思っていた。

「あのね、50歳の頃にも職場の人からプロポーズされててん」。母の話は続く。えーっ。母よりも10歳も年下だって？　知らなかった。

90歳を過ぎた母の顔を穴のあくほど見つめた。案外かわいらしい。思い出がいっぱい詰まっているひとりの女性としての人生の輝きが伝わってきた瞬間だった。

秘密の話を教えてくれてありがとう。その日の帰り道はうれしくて思わずスキップしたくなってしまった。

大久保優(71)　神戸市中央区

22面に募集要項

産経新聞 THE SANKEI SHIMBUN　産経ニュース
https://www.sankei.com
スマホにかざすとサイトが閲覧できます。

ひなちゃんの日常　22面

きょうの天気

	降水確率	最高	最低
東京	30	9	3
札幌	40	1	-8
仙台	10	6	-3
宇都宮	20	8	-1
水戸	20	9	-1
前橋	20	10	0
さいたま	30	9	0
千葉	30	9	4
横浜	30	8	3
新潟	20	6	-3
長野	20	6	-7
甲府	30	9	0
静岡	30	12	5
大阪	20	12	3
福岡	30	13	8

週間天気20面

きょうの紙面

辺野古着手　2、20

東証　3万4000円超え　5
米ＣＥＳ開幕　ＡＩ席巻　10
正論　「旧宮家の養子」内閣法制局も合憲　百地章氏　9
話の肖像画　武田鉄矢さん　18

政治	6	証券	11
国際	7	生活	12
囲碁・将棋	8	文化	14
オピニオン	8、9	スポーツ	16
経済	10	BS・CS・ラジオ	18

◇おことわり　「『移民』と日本人」は休みます。